

松前街道の円空仏

青森市油川から外ヶ浜町三厩まで、陸奥湾沿いに北上する街道は、かつて松前街道と呼ばれていました。今から約350年前、円空という僧がこの道を通り松前を目指しました。



■円空とは

円空は、江戸時代前期の臨済宗の僧で、全国に「円空仏」と呼ばれる独特の作風を持った木彫りの仏像を残したことで知られています。円空は生涯に約12万体の仏像を彫ったと推定され、現在までに約5300体以上の像が発見されており、それらは、北は北海道や青森県、南は三重県や奈良県にまで及んでいます。作品のひとつひとつがそれぞれの個性をもっています、

■円空の足跡

円空は、1632(寛永9)年、美濃国(現在の岐阜県)に生まれ30歳を過ぎて故郷を去り全国各地へ作仏行脚の旅に出ています。旅の足跡は各地に残されていますが、その旅の初めが東北・北海道だったことは、あまり知られていません。

木の形や質感を活かした素朴な造形に加え、慈愛に満ちた優しい「微笑」の表情から、癒し系の仏像として根強い人気を誇ります。

ん。岐阜県美並村の根付神明神社には1663(寛文3)年に円空が造った神仏像が残っていますが、この史料の次に、円空の足跡を示す史料が弘前市で見つかっています。

弘前市立図書館に所蔵されている『弘前藩庁御国日記』の寛文6年1月29日条に、『円空と申旅僧老人長町二罷有候処二御国二指置申間敷由被仰出候二付而、其段申渡候所、今廿六日二罷出、青森へ罷越、松前へ参由』と記されており、この史料によって、寛文6年1

月頃に、円空が弘前城下にいたことがわかります。また、藩命により弘前を追い出され、青森へ向かい、さらに松前(北海道)へ向かったことも記されています。弘前を去った円空は、松前から釧路さらに礼文島まで足を延ばし、1年余りを経て再び津軽へ帰ってきます。外ヶ浜町三厩の義経寺にある円空仏の背

面には、寛文7年夏の銘文が書かれています。渡道の前か後かは不明ですが、下北半島にも滞在し、その後、津軽を南下し、秋田領に去って行ったと考えられています。

■青森県の円空仏

青森県内には17体の円空仏が確認されており、それぞれ県や自治体の文化財に指定されています。各円空仏の正確な制作年や、県内を巡る円空の足どりなどは不明ですが、残された仏像が街道の筋目を表しています。

かつて円空が歩いた松前街道沿いには4体の円空仏が残され、油川は羽州街道と松前街道の合流点にあたります。羽州街道沿いの弘前や浪岡はもちろん、田舎館や平川市沖館は、大鰐から浪岡に至る乳井街道の近くにあり、秋田領へ至る大間越(西浜)街道沿いの鱈ヶ沢にも1体残されています。

No.	円空仏の名称	所蔵場所	住所
1	釈迦如来坐像	浄満寺	青森市
2	観音菩薩坐像	西光院	青森市浪岡
3	観音菩薩坐像	元光寺	青森市浪岡
4	観音菩薩坐像	正法院	蓬田村
5	観音菩薩坐像	福昌寺	外ヶ浜町
6	観音菩薩坐像	義経寺	外ヶ浜町
7	十一面観音立像	西福寺	弘前市
8	地藏菩薩立像	西福寺	弘前市
9	十一面観音像	普門院	弘前市
10	十一面観音立像	胸肩神社	田舎館村
11	菩薩坐像	沖館神明宮	平川市
12	男神像	個人宅	中泊町
13	菩薩坐像	延寿院	鱈ヶ沢町
14	観音菩薩立像	恐山菩提寺	むつ市
15	観音菩薩半跏思惟像	恐山菩提寺	むつ市
16	如来立像	常楽寺	むつ市
17	十一面観音立像	長福寺	佐井村

※円空仏の拝観には、事前に申込が必要です。お問い合わせは、各寺院又は各市町村教育委員会(文化財担当)へお願いします。



青森市浪岡・西光寺の円空仏